

## 西東京市インターンシップ 児童館ランチタイム

**プログラム概要**：西東京市の児童館では、保護者の就労などで昼食が「孤食」になりがちな児童のためにランチタイムを開催し楽しく食べる時間を共有する。

また、子供たちの現状やコミュニケーションのノウハウを学ぶ。

**実習先**

：西東京市芝久保児童館

**実習先情報**：西東京市内で一番小さい児童館。上の階には芝久保学童クラブが併設されている。工作室、遊戯室、図書室、乳幼児専用ルームがある。

**参加人数**

：3名

**学部学科**

：教育学科、日本文学文化学科

**実習期間**

：令和4年8月8日～8月31日

**本学担当教員**

：本谷勇治

### ○はじめに

私たちは現場に赴き、知識を身につけ経験を積みあげたうえで、社会に貢献できる人物になることを目標に実習にあたった。積極的に周囲に目を向けて行動する、児童館の施設の方や利用者の方と自分からコミュニケーションをとる、児童たちに実習生と過ごした期間を楽しいものだったと思ってもらう等の目標をそれぞれ立てて活動した。また、児童の孤食という社会問題について考えを深めるきっかけになった。

### ○実習内容

館内のアルコール消毒、ランチタイムの指導、工作準備、児童館の事務補助、子どもの遊び指導

### ○経験したこと、学んだこと、など

今回の実習でのランチタイム利用者は、小学2年生の男児1人でその児童の食べている様子を見守った。初めは私たちに見られている状況に戸惑ったり、孤食ではないことに喜びを感じて私たちに話しかけてきてしまったりすることがあった。コロナ禍という状況から黙食を促さなければならない一方で、誰かと食事の時間を共有することの楽しさを感じてもらえたことが、笑顔で食べている姿からうかがえた。このことから、共食はより食事を楽しくおいしくさせることができると学んだ。

実習では私たちがどこまで注意していいのかという躊躇いがあったり、児童との適切な距離感について悩んだりすることもあったが、児童館の方や学童クラブの先生方から時に厳しく注意をすることも児童のためには大切なことであると教わった。そこから児童との接し方を常に考えながら関わっていくことができた。

また、児童館の方のご厚意で、児童館だけでなく併設されている学童クラブや周辺の学童クラブでも実習を行う機会があった。それぞれの学童クラブで雰囲気が異なりルールも独自のものがあったため慣れるのに時間がかかったが、たくさんの児童たちと関わることができて非常に貴重な体験ができた。

## ○今後の展開、今後の学び、など

教員を目指す身として、この実習での経験を今後の大学生活で活かせると思った。実際に子どもたちと触れ合うことで発見できた多くのことは、座学では学べないことがあるため、四年間の大学生活や教員になった際の参考にしていきたい。また、子どもとの接し方を学べたことはもちろん、教育における問題もいくつか見つけることができたため、それらの解決策を教員として考えていきたい。

## ○まとめ

今回の実習でそれぞれが立てた目標に向けて一つ一つの行動を意識しながら過ごすことや、児童や施設の方々との関わり方について考えたことで、社会性を身につけることができた。また児童の孤食という社会問題を今まで身近に感じたことはなかったが、実習を通して実際に孤食の問題を抱えている児童とふれあつたことで、孤食だけではなく子どもに関わる問題について考えるきっかけになった。子どもたち同士でも一緒に遊ぶ子が違えば見える一面も違い、子どもからも学ぶことが多くあった。一人一人の個性を重要視しながら関わっていくことは大変なこともあったが、自分自身の成長につながり充実した実習になった。

## ○担当教員コメント

児童館という小さな社会での社会性が身に付いたことが大きな成果でした。これは、子供たちとの信頼関係、職員間の人間関係を形成していく上でとても大切なことです。また、子供たちの心と体の健やかな成長を促していく上でも、たいへん重要なことです。将来の専門性を視野に入れた素晴らしい学びです。

## 児童館ランチタイム

プログラム概要	新町児童館にて子どもの遊び指導、児童館行事の補助、環境整備を行う
実習先	新町児童館
実習先情報	新町児童館は。緑豊かな多摩湖自転車歩行車道に近い、閑静な住宅街の中に複合施設として建っています。1階が福祉会館で、2階が児童館になっています。 <a href="http://nishitokyo.lg.jp">新町児童館 西東京市Web (nishitokyo.lg.jp)</a>
参加人数	3名
学部学科	教育学部教育学科、教育学部幼児教育学科、人間科学部人間科学科
実習期間	令和4年8月8日～8月31日
本学担当教員	本谷勇治先生

## ○はじめに

0～18歳未満の児童に健全な遊びを与え、情操を豊かにするという児童館の設置目的を達成するために、フィールドスタディーズを通じて児童館のお手伝いを行った。また、夏休み期間中に両親が共働きであることなど様々な事情から家で一人でお昼ご飯を食べる児童（孤食）を減らすために、ランチタイムに児童館を開放し、児童館の職員や私たちと一緒に食べることで孤食防止に努める。

全ての実習において、新型コロナウイルス感染予防に十分に注意することを心がけて活動した。

## ○実習内容

- ・子どもの遊び指導
- ・幼児の遊び指導
- ・環境整備（本・遊び道具の消毒、莫産干しなど）
- ・工作の準備
- ・工作の指導
- ・洗濯
- ・各小学校に配布するお便りのコピー



## ○提案したこと、発信したこと、など

児童館で行う工作を自分たちで制作！

- ・消毒液を幼児の目の届くところに置いていた。  
→幼児は好奇心から消毒液を手にしてしまったり、口に入れてしまったりする可能性があるため、手の届かないところに設置することを提案した。
- ・児童が遊ぶ際にゲームのルールがあやふやで何度も言い合いになっていた。  
→みんなでルールを統一して、言い合いにならないように児童館の先生や私たちも一緒に考えた。また、児童だけで勝ち負けなど判断ができない場合は、先生が判断を行い、文句は言わず、仲良く遊ぶことを提案した。

## ○経験したこと、学んだこと、など

- ・様々な年齢の子どもたちに対しての接し方、常に地域の人に支えられて児童館は成り立っているということ、遊ぶときに子どもたちと一緒に楽しむことや、口出しをせずに見守ることも時には大切だということを学んだ。
- ・新町児童館は、児童館だけではなく、学童クラブと小学生以下の子どもも利用できる幼児ルームが併設されていた。年齢を問わず、地域の方々が気軽に使えるような施設で、子育て支援も行っているため、子どもだけでなく子育てをする人の支えにもなっていることが分かった。
- ・想像以上に体力勝負で、体力がないと児童館の仕事は務まらないと実感した。
- ・特に高学年は、遊び方が激しくて衝突や怪我が多いが、遊びを続けたがるため、こちらで配慮することが必要だと感じた。

## ○今後の展開、今後の学び、など

今回の実習から児童館がどのような役割を担っているか理解できたため、今後は自分が児童館のためになにができるのかを考え、工作などイベントがある際はお手伝いに行ったり、本やおもちゃなど可能であれば寄付を行ったりして、児童がより楽しく遊べるように支援する。

## ○まとめ

- ・児童の特徴を読み取って、一人一人に合わせた対応を行う。
- ・一つのことに没頭せず、周りを見て気が付いたことがあれば、すぐ行動に移せるようにする。
- ・子どもと関わる仕事に就く上で、これからも体力をつけていくことが必要。
- ・将来、教育関連の職業に就きたいと考えている身として、学校や家とは違った第三の教育の場所としての視点で教育について考えることができた。  
→今後の職業選択や社会に出る際に活かしていく



児童からプレゼント…！

## ○担当教員コメント

幼児期・児童期の心身の発達において「遊ぶこと」の重要性について学ぶことができた。また、ともに遊び、遊びを支援することによって、子供たちの成長を発見することができ、子供たちを育てるこのやりがいを実感することができた。

## ○実習先コメント

- ・大人も子どもと一緒に楽しむことが大切。
- ・遊びを提供してあげて、最終的に一人遊びができるようにする。
- ・ルールが難しいゲームなどは全て教えてあげるのではなく、ヒントを少しだけ言い、自分たちでできるよう導く。

## 西東京市インターンシップ 児童館ランチタイム

プログラム概要	孤食になりがちな児童と夏休み期間ランチタイムを過ごし、楽しく食べる時間を共有すること、その他児童館業務（清掃、消毒、児童と関わる等）
実習先	西原北児童館（東京都西東京市）
実習先情報	西原北児童館は集合団地の中にある学童クラブが併設された児童館で、幼児から児童まで幅広い層が楽しむことができる施設
参加人数	3名
学部学科	教育学科、幼児教育学科
実習期間	令和4年8月8日～8月31日
本学担当教員	本谷勇治

## ○はじめに

- ・ランチタイムの活動から孤食の現状について知り、学生の私達が出来ることは何かを考えること。
  - ・一日を通した児童との関わりや職員の方から児童との関わり方を学ぶこと。
  - ・児童に楽しいと思ってもらえるような指導をして楽しい夏休みにしてもらうこと。
  - ・児童との関わり方を学び、幼児と児童でのアプローチの仕方の違いを学ぶこと。
- 以上のこと目標にして活動に取り組みました。

## ○実習内容

- ・ランチタイム準備（机の消毒）
  - ・ランチタイム（コロナのため黙食）、食後はカードゲームなどをして食休み
  - ・館内の清掃、消毒 遊具の消毒
  - ・子どもたちと一緒に遊ぶ（児童館の子、学童の子）
- EX) カードゲーム、ボードゲーム、バスケ、  
ドッヂボール、卓球、伝承遊び等
- ・児童館や幼児研修で行われる工作体験の事前準備、企画の準備



## ○提案したこと、発信したこと、など

- ・子どもたちへ新しい遊びを教える  
(ダウトのやり方)
- ・塗り絵を作る
- ・打ち水のじょうろを牛乳パックで作る



## ○経験したこと、学んだこと、など

- ・児童館ランチタイムの機会があっても新型コロナウィルス感染症の対策で黙食で食べなくてはいけないが、普段とは違う環境や複数人で食事ができる場があることが大切だと学びました。
- ・子どもたちと一緒に遊ぶときはまず自分が一番楽しもうとして、子どもたちも楽しんでくれている様子やたくさんの笑顔を見ることができました。児童館は幼児や小学生低学年の利用が多いイメージでしたが、実習を通して高学年の子も中学生も利用していて年齢関係なく楽しむことができる空間があることを学びました。児童館は、遊びだけではなく勉強や工作をしたり、落ち着いて読書ができる場があるので楽しむことや安心して過ごせる空間であることを学びました。

## ○今後の展開、今後の学び、など

・今回活動して、ランチタイムは夏休みの間の孤食を防ぐのに有効な取り組みであるのにあまり児童や家庭に浸透していないように感じました。

今後は孤食という問題に対してこんな活動があるのだ、ということを地域に発信していく必要があると思います。

また、コロナの関係で黙食になってしまふが、一人で食べるごはんと他の人と時間を共有して食べるごはんでは時間の有意さが変わってくると思うので、コロナ禍の状況でも大切な取り組みだと考えます。

・11日間、児童と関わることで一人ひとりの特性や個性を知ることが出来ました。それによって児童によって正しい接し方は変わるので柔軟に対応する力が必要だということを学びました。今後、実習などで幼児や児童と関わる際や将来、現場で働く時に今回学んだ関わり方や柔軟な考え方を活かしていきたいと思います。

## ○まとめ

はじめに立てた目標をもとに、普段経験できないような活動を通して、ランチタイムの重要性や、子ども達との関わり方について学ぶことができました。一人一人が感じたことをもとに将来に活かしていきたいです。

## ○実習先コメント

・毎回実習を通して課題を見つけ、解決に向けて努力し、自ら進んで物事に取り組む姿も多く見られました。子ども達とも上手に関わってくれましたね。

・一人一人の児童に優しく丁寧に、距離感も上手に取りながら接していましたね。毎回、気づきや課題に対し、真剣に取り組んでいました。様々な事柄を考え一生懸命実習に取り組んでいました。

・実習本当にお疲れさまでした。子ども達の中に上手に溶け込み、毎回課題に向かって頑張っていましたね。



## ○担当教員コメント

児童の孤食の問題を肌で感じることができて、とてもよかったです。孤食問題の解決策を発信し、児童や保護者に伝えていくことが大切ですね。

## 西東京市インターンシップ 児童館ランチタイム

プログラム概要	児童館業務
実習先	中町児童館
実習先情報	碧山小の東、なかまち保育園の北側に位置している児童館。乳幼児から小学生以上を対象としたさまざまな活動を行っている。また、第1、3、5日曜日は日曜開館も実施している。
参加人数	3名
学部学科	教育学科、社会福祉学科
実習期間	令和4年8月8日～8月31日
本学担当教員	本谷勇治

### ○実習内容

- ・館内の清掃
- ・児童館や学童クラブの子どもたちとのふれあい
- ・感染症対策の消毒作業
- ・プラバン、ぶんぶんゴマの下準備

### ○提案したこと、発信したこと、など

- ・折り紙のおり方の手順を示したものの作成、提供
- ・興味のありそうなキャラクターの折り紙作成



### ○経験したこと、学んだこと、など

- ・児童を孤独にさせないために声掛けなどをしていること
- ・ボール遊びの間に換気の時間を設けたり、使ったラケットや本はそのまま元にあつた場所に戻すのではなく、専用のかごに入れ消毒作業をこまめに行ったりするなど、コロナ対策が徹底されていること
- ・言い争いや手を出してしまい喧嘩に発展しそうな際の仲裁
- ・プラバンやぶんぶんゴマ、夏祭りなどのイベントのサポート



## ○今後の展開、今後の学び

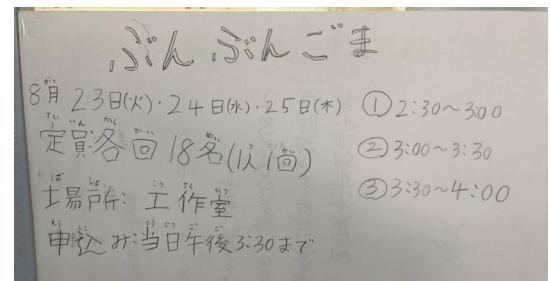
・コマを回すときは最初はうまくまわせなかった。得意な子も苦手な子もいて、「一緒にやってみようよ」と声をかけると、「私はできないから、、」と言う子も多かった。その中でも「先生もできないから、大丈夫！やってみよ」と言い、「じゃあ」と一緒に挑戦してくれた子もいた。できないことができるようになっていく瞬間を大切にしたいと思った。

・挨拶にはすぐに返してくれるし、マナーもよい子も多かったために非常に助かったが、意外と手が出るのが早い子も居たので注意した。じゃれ合いしている子供をどこまでしたら止めていいのかやぶつかり合いでケガをさせないように苦悩しているのが理解できた。

・折り紙を教えることも多かったが、逆に子どもたちから教わることも多かった。私が作り方を教えて新しいものが作れるようになった時はもちろん喜んでくれたが、それ以上に、子どもたちが教えて私が完成した時の方が子どもたちはとても誇らしげな顔をしていた。教わる側から教える側に成長していく子どもたちの姿はとても輝いていて、その成長をサポートしていくことが重要だと思った。

・子どもたちが積極的にイベントの準備や受付に参加しているのが印象的だった。受付をしている子どもたちは普段よりもお兄さん・お姉さんに見えて、何か役割を与えることでこんなにも成長した姿を見せてくれることに驚いた。

また、子どもに任せられるところは任せる  
ことで、お客様側の子どもの協力も得られると感じた。子どもを味方に付けて運営  
していくことは双方にメリットがあると思った。



## ○まとめ

とにかく毎日が充実していたFSだった。「なるべく楽しく過ごしてほしい」という大人たちの動きがあって運営されていると感じた。暇だと感じている子がわくわくした表情に変わると嬉しかった。今回は特に、折り紙というツールをきっかけに沢山コミュニケーションを取ることができた。例えば、おじいちゃんちに行った話、テーマパークに行った話、川で遊んだ話など、沢山聞くことができた。提案する折り紙は作って終わりではなく、その過程や完成した後にも遊べるもの意識して作成した。「子どもたちがどうしたら楽しく過ごせるかな」と考える時間はこれまでにない様な時間だった。

## ○担当教員コメント

児童館が子供たちにとって「楽しく過ごせる場所」であるために、様々な企画運営があることを学んだ。そのための準備に専念し、実際に子供たちとともに活動して、子供たちの行動力・素晴らしさ・良さを見取ることができた実習だった。

## ○実習先コメント

- ・子どもたちに絶対に怪我をさせない
- ・中学生や高校生の夏休み明けの不安等の相談に乗り、居場所を作る心掛け
- ・一人ひとりに合った対応をする

## 西東京市インターンシップ 児童館ランチタイム

プログラム概要	田無児童館にて児童館の仕事や子どもと遊ぶといった活動
実習先	田無児童館（東京都西東京市）
実習先情報	幼児から中学生までが利用できる児童館
参加人数	3名
学部学科	幼児教育学科、社会福祉学科
実習期間	令和4年8月8日～8月31日
本学担当教員	本谷勇治

## ○はじめに

この実習における目標として

- ・子どもとたくさん関わり、コミュニケーションをとる
- ・子どもたちの現状を知る
- ・現場で働く大変さや責任感を学ぶ
- ・挨拶、聞く姿勢等を子どもたちとの関わりを通して学ぶ
- ・子ども達の居場所となっている児童館について知る
- ・



## ○実習内容

子どもたちのお昼ご飯を見守る、子どもと遊ぶ、職員の方々のサポート、学童の活動の補助、机やおもちゃの消毒、館内の清掃、イベントのサポートや準備、遊び道具の修復、本の整理

## ○提案したこと、発信したこと、など

時間が空いた際に、自分たちから何かできることはないか聞くことができた。  
壊れていたおもちゃ等の修復を提案し、子どもたちが快適に遊べるよう努めた。  
遊び方や、ルールを子どもたちに教えてあげた。  
自分たちの方から積極的に声をかけにいくことができた。

## ○経験したこと、学んだこと、など

幅広い年齢の子があり、年齢関係なくみんなで一緒に遊んでいた。

小学校教員や保育士などの職業以外にも児童館の先生という選択肢があることに気づくことができ、将来における視野が広がった。

実際に子どもを指導する立場にたつことで社会人として働くということの大変さとやりがいを感じた。

子どもたちの居場所として児童館という場があることを知ることができ、また子どもの孤食を解消する取り組みの重要性を知ることができた。

子どもは遊びを通して学び、成長していると実感させられた。

## ○今後の展開、今後の学び、

自分たちから動くということができていない部分があったため、その反省を活かしましたこういった自習がある際にはより積極的に行動したい。

児童館のような子どもたちのための地域の施設があることを知ったことで、子どもを取り巻く環境の重要性を学ぶまでの知識を得ることができた。

## ○まとめ

この実習を通し、子どもとの関わり方を知ることができた。

年齢や学年によって接し方が大きく変わってきたり、幅広い年齢の子どもたちとの遊びや活動の中でコミュニケーションを取るうえで気づきがたくさんあった。

また子どもの遊び場が減り、共働きの家庭が増えている今の時代にはこのような場所の需要があると考えた。それにより孤独に感じる子どもが減り、地域の繋がりも増えることで、子どもだけでなく全員が暮らしやすい社会になるのではないか。

子どもと関わることで共に成長し、人との繋がりの大切さや子どもの純粋さを実感し元気をもらうことができた。とても有意義な実習にすることができた。

## ○担当教員コメント

今の社会では、人と人とのかかわりがとても大切といわれています。児童館では、子どもとのかかわりが重要です。かかわりのポイントはコミュニケーションです。子どもとのコミュニケーションを取る上で、多くの学び・気づきがあって実り多い実習になりました。このことは、今後、社会に生きていく上でも大変役に立つことです。将来の専門性を視野に入れて、大学での学びにも生かしたいです。

## ○実習先コメント

自分たちから何かできることはないか探し、動くことができていたのがよかったです。子どもたちも楽しそうに過ごすことができていたため、そこから学ぶこともあったのではないか。お疲れさまでした😊



## 西東京市児童館学童クラブ ランチタイム

プログラム概要	保谷柳沢児童館・学童クラブで児童館全般の仕事や児童の遊びの指導を行う。
実習先	保谷柳沢児童館・学童クラブ（東京都西東京市）
実習先情報	月曜日から土曜日の午前9時15分～午後6時に開館している。0歳～18歳未満の子どもとその保護者が無料で利用できる。
参加人数	3名
学部学科	幼児教育学科
実習期間	令和4年8月8日～8月31日
本学担当教員	本谷勇治先生

## ○はじめに

西東京市の児童館では、保護者の就労など昼食が「孤食」になりがちな児童のために、夏休み期間ランチタイムを開催している。現在試行中で今年度は6館で実施。子どもたちと楽しく食べる時間を共有する。

また終日児童館業務に従事することで子どもたちの現状やコミュニケーションのノウハウを学ぶ。

なお、保谷柳沢児童館ではランチタイムは未実施である。

## ○実習内容

- ・椅子のセッティングやおもちゃを出すなどの開館準備
- ・館内の消毒と清掃
- ・児童館に来た子どもたちと遊ぶ
- ・学童の子どもたちと遊ぶ
- ・学童の先生の手伝い
- ・壁画の作成
- ・花壇の水やり
- ・蚊取り線香の設置



## ○提案したこと、発信したこと、など

- ・壁面にて秋を表現し、来館者に季節を感じてもらう

## ○経験したこと、学んだこと、など

- ・今の子どもたちが遊ぶゲームのやり方
- ・会話をする際の言葉選びの難しさ
- ・地域の大人と児童館・学童クラブの深い関わり
- ・既製品のおもちゃと手作りのおもちゃの併用
- ・壁画の作成
- ・子ども食堂に寄付をするストラップの作成
- ・児童館や学童クラブを利用している子どもの保護者との関わり
- ・公園にて子どもと遊具や自然で遊ぶ
- ・大人数で遊ぶ際に、子どもに遊びを強要しない
- ・子どもとのスキンシップについての注意(膝に乗る、抱っこ、腕に絡みつくなど)
- ・子どもが鼻血を出した時の対応法

## ○今後の展開、今後の学び

- ・画用紙で子どもの興味を引くことができるような鮮やかで可愛い壁画作りのレパートリーを増やす
- ・子ども個人への適切な対応を様々考える
- ・保育園や幼稚園だけでなく、児童館や学童クラブの職員についてもっと詳しく知り、就職先の幅を広げる

## ○まとめ

児童館と学童クラブで活動をして普段では体験できない先生の立場から子どもたちの観察をし、様々な特徴や性格の子どもたちと触れ合うことで、今まで感じることのなかった接することの難しさを知ることができるような実習ができた。

児童館は遊ぶ場所の提供だけでなく、家でできない経験をしたり、同世代の子や異年齢児とコミュニケーションをとったり、保護者の方は他の利用者と会話して育児のポイントを知る機会になったり、気分転換になったりなど子どもにとっても親にとってもメリットがたくさんある場所だと考える。

## ○担当教員コメント

児童館や学童クラブは、子供たちにとっても保護者にとっても、成長の場です。その成長を促す役割を果たしているのが、そこで働く先生方です。その先生の立場での学びが多くあって、将来の専門性の視点から実り多い実習になりました。